

# 製品安全データシート

作成: 2018年2月8日

改訂:

## 1. 製品及び会社情報

整理番号 : KF115-1  
製品名 : テプロスフロアブル  
会社名 : クミアイ化学工業株式会社  
住所 : 東京都台東区池之端1-4-26  
担当部門 : 生産資材本部 生産部 生産統括課  
電話番号 : 03-3822-5180  
FAX番号 : 03-3827-0825  
緊急連絡先 : 同上  
推奨用途及び使用上の制限 : 農薬

## 2. 危険有害性の分類

最重要危険物有害性及び影響

GHS分類

物理化学性危険性	引火性液体	: 分類対象外
	自己発熱性化学品	: 分類対象外
	自然発火性液体	: 分類対象外
物理化学性危険性	自然発火性固体	: 区分外
	可燃性固体	: 区分外
	水反応可燃性化学品	: 区分外
健康に対する有害性	急性毒性(経口)	: 区分4
	急性毒性(経皮)	: 区分外
	急性毒性(吸入:ガス)	: 分類できない
	急性毒性(吸入:蒸気)	: 分類できない
	皮膚腐食性/刺激性	: 区分外
	眼に対する重篤な損傷/眼刺激性	: 区分外
	皮膚感作性	: 区分外
	呼吸器感作性	: 区分外
	生殖細胞変異原性	: 分類できない
	発がん性	: 分類できない
	生殖毒性	: 分類できない
	特定標的臓器/全身毒性(単回暴露)	: 分類できない
	特定標的臓器/全身毒性(反復暴露)	: 分類できない
吸引性呼吸器有害性	: 分類できない	
環境に対する有害性	水生環境有害性(急性)	: 区分2
	水生環境有害性(慢性)	: 区分できない

上記で記載がない危険有害性は、分類対象外か分類できない。

GHSラベル要素

絵表示



注意喚起語

警告

## 危険有害性情報

- ・飲み込むと有害
- ・水生生物に毒性

## 注意書き

### 【予防策】

- ・使用前に取り扱い説明書を手し、安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
- ・取り扱いの際には、飲食または喫煙をしないこと。
- ・ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
- ・指定された個人用保護用具を着用すること。
- ・環境への放出を避けること。
- ・取り扱い後はよく洗うこと。
- ・漏出物を回収すること。

### 【対応】

- ・眼に入った場合、直ちに清浄な流水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易にはずせる場合ははずし、その後も洗浄を続けること。
- ・眼の刺激が続く場合は、医師の診断を受けること。
- ・飲み込んだ場合、体調の悪い時は医師に相談すること。
- ・暴露または暴露の懸念がある場合、医師の診断を受けること。
- ・気分が悪い時は、医師の診断を受ける。

### 【保管】

- ・施錠して保管すること。

### 【廃棄】

- ・内容物、容器を法、条例に従って安全に処理する。または、都道府県知事の許可を受けた専門の産業廃棄物処理業者に委託して適切に処理する。

## 3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別：単一製品

化学名：6-tert-ブチル-8-フルオロ-2,3-ジメチル-4-キノリンアセテート

成分及び含有量：デブフロキン 20.0%

<その他> 水、界面活性剤、増量剤等 80.0%

化学式： $C_{17}H_{20}FNO_2$  / デブフロキン

官報公示整理番号： 化審法 -  
安衛法 -

CAS No. : 376645-78-2 / デブフロキン

## 4. 応急措置

目に入った場合：直ちに清浄な流水で十分に洗眼し、医療措置を受ける。コンタクトレンズを着用していて容易にはずせる場合ははずし、その後も洗浄を続けること。

皮膚に付着した場合：汚染した衣類、靴などは速やかに脱ぎ捨て、製品が付着した部分を水又はぬるま湯で十分に洗い流し、石鹸を使って洗浄する。皮膚に刺激を生じた場合は医師に相談すること。

吸入した場合：被災者を直ちに新鮮な空気の場合に移動し、衣服をゆるめて深呼吸させる。多量に吸入した場合は医療処置を受ける。

飲み込んだ場合：被災者を安全な場所に移動し、直ちに医療措置を受ける。口の中に残っているものはぬぐったりして除去した後、多量の水や牛乳を与えて吐き出させる。ただし被災者に意識の無い場合はものを与えたり、吐き出させたりしてはならない。

## 5. 火災時の措置

消火方法：初期の消火には粉末、不活性ガス消火器、泡沫消火器などを用いる。大規模火災には、泡消火剤を用いて空気を遮断する。

消火剤：水、粉末消火剤、二酸化炭素、泡沫消火剤

消火活動上の注意：危険でなければ火災区域から容器を移動する。移動不可能な場合は容器及び散水して冷却する。

消火のための放水等により、環境に影響を及ぼす物質が流出しないよう適切な措置を行う。液体の場合、燃焼源の供給を速やかに止める。

## 6. 漏出時の措置

作業者に対する注意：作業の際には保護具（暴露防止措置欄参照）を着用し、飛沫等が皮膚に付着したり、粉塵を吸入しないようにする。関係者以外の立ち入りを禁止する。

環境影響に対する注意：流出した多量の製品が河川等に排出され、環境への影響を起ささないように注意する。

流出物の処理に対する注意：飛散したものを掃き集めて、密閉できる空容器に回収する。

## 7. 取り扱い及び保管上の注意

取り扱い上の注意：取扱いは換気のよい場所で行い、漏れ、あふれ、飛散がないようにする。

皮膚、粘膜又は着衣に触れたり、眼に入らないようにする。休憩場所には、手荒い、洗顔等の設備を設け、取り扱い後に手、顔等をよく洗う。

火災・爆発の防止：通常の保管方法で問題無し。

保管上の注意：直射日光が当たらない冷暗所に保管し、異種物質の混入を避けること。

## 8. 暴露防止措置

許容濃度：日本産業衛生学会及びACGIHのいずれも設定されていない。

設備対策：取り扱いについては、できるだけ密閉された装置、機器を使用し、局所排気装置を併用する。

保護具 呼吸用保護具：防護マスク

保護手袋：ゴム手袋

保護眼鏡：普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型

保護衣：作業着、帽子、保護服

## 9. 物理・化学的性質

外観等 : 類白色水和性粘稠液体

pH (5倍希釈液) : 6.8

密度・比重 : 1.05g/cm<sup>3</sup>(25°C)

粘度 : 269mPa・s(20°C)

## 10. 安定性及び反応性

安定性 : 通常の保管環境下で安定

危険有害反応可能性 : データなし

避けるべき条件 : データなし

混触危険物質 : データなし

危険有害な分解生成物 : データなし

## 11. 有害性情報

急性毒性（経口） : ラット(♂ ♀) LD<sub>50</sub> 300~2000 mg/kg

急性毒性（経皮） : ラット(♂ ♀) LD<sub>50</sub> 2,000 mg/kg 以下

急性毒性（吸入：粉塵） : データなし

急性毒性（吸入：蒸気） : データなし

皮膚腐食性／刺激性 : 刺激性なし 区分外

眼に対する重篤な損傷／刺激性	: 刺激性なし	区分外
呼吸感作性	: データなし	
皮膚感作性	: 感作性なし	区分外
生殖細胞変異原性	: データが不足しているため分類できない	
発がん性	: データが不足しているため分類できない	
生殖毒性	: データが不足しているため分類できない	
特定標的臓器／全身毒性(単回暴露)	: データが不足しているため分類できない	
特定標的臓器／全身毒性(反復暴露)	: データが不足しているため分類できない	
吸引性呼吸器有害性	: データが不足しているため分類できない	

## 1 2. 環境影響情報

以下の知見から、水生急性毒性は、区分2とした。水生慢性毒性はデータ不足のため分類できない。

生態毒性 魚	: (コイ)LC <sub>50</sub>	22 mg/l (96時間)
甲殻類	: (オオミジンコ)EC <sub>50</sub>	2.2 mg/l (48時間)
藻類	: EC <sub>50</sub>	16 mg/l (72時間)
残留性／分解性	: 生分解性あり	
生体蓄積性	: なし	
土壤中の移動性	: 高い	
その他	: データなし	

## 1 3. 廃棄上の注意

都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に処理を委託する。洗浄水等は、凝集沈殿、活性汚泥などの処理により清浄にしてから排出する。空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去した後に処分する。都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に処理を委託する。

## 1 4. 輸送上の注意

輸送前に容器の破損、腐食、漏れ等がないことを確認する。転倒、落下、破損がないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。車輛、船舶には保護具(手袋、眼鏡、マスク等)を備える他、緊急時の処理に必要な消火器、工具などを備えておく。

## 1 5. 適用法令

農薬取締法	: 登録番号 第23263号
消防法	: 非該当
労働安全衛生法	: 非該当
化学物質排出把握管理促進法(PRTR法)	: 非該当
毒物劇物取締法	: 非該当
水質汚濁防止法	: 非該当

## 1 6. その他

記載内容は、現時点で入手できた資料・情報に基づいて作成しておりますが、危険・有害性等に関して、いかなる保証をなすものではありません。注意事項については通常取り扱いを対象としたものであり、特別な取り扱いをする場合は、用途・用法に適した安全対策を講じて下さい。危険・有害性の評価は必ずしも十分ではないので、取り扱いには十分注意して下さい。

使用に当たっては、ラベルの注意事項を良く読んで下さい。

- 引用文献: 1) J I S Z 7 2 5 2 : 2 0 0 9 G H Sに基づく化学物質等の分類方法  
 2) G H S対応ガイドライン 製品安全性データシートの作成指針(改訂2版)  
 平成20年10月 社団法人 日本化学工業協会  
 3) 農薬中毒の症状と治療法 第13版 平成26年4月 農薬工業会

作成部署以外の連絡先

(財団法人) 日本中毒情報センター

大 阪 (年中無休、24時間)	一般市民向け相談電話(無料)	072-727-2499
	医療機関専用有料電話(1件2,000円)	072-726-9923
つくば(毎日9時~21時)	一般市民向け相談電話(無料)	029-852-9999
	医療機関専用有料電話(1件2,000円)	029-851-9999

※ ただし、上記の何れも通話料は相談者の負担となります。